

看護小規模多機能型居宅介護事業所支援事業（京都府基金事業）

京都府看護小規模多機能型居宅介護（看多機）の活動

つながる、広がる、看多機の輪

～多職種連携で創る、新しい地域の拠点～



公益社団法人 京都府看護協会

はじめに

2040 年に向け、地域医療構想で医療機関の機能が変化していく中、「病院完結型」から「地域完結型」へと移り、在宅療養する要介護高齢者の増加が見込まれており、医療と介護の複合的なニーズや在宅看取りに対応できるサービス提供体制整備が求められています。

地域で暮らし続けたいという思いは、誰にとっても変わらない願いです。看護小規模多機能型居宅介護（看多機）は、その願いを支えるために生まれた仕組みであり、医療と介護が一体となって「その人らしい生活」を支える地域の拠点です。

2012 年に創設された看多機は、「通い」「泊り」「訪問介護」「訪問看護」を柔軟に組み合わせ、利用者やその家族の暮らしを支えるサービスです。医療と介護が一体となることで、在宅生活を続けていきたい方や医療的ケアが必要な方にも、安心して過ごせる環境を整えています。

地域共生社会の実現に向け、在宅療養を広く支えるサービスとして、退院後の変化の大きい時期や、生命を全うする時まで、必要とする方が利用できるよう、看多機の役割や機能を知っていただくことが必要です。

京都府では、令和 8 年 3 月現在、18 か所の看多機が設置されています。療養生活を継続するための重要な機能を担っていますが、当協会の令和 6 年度基金事業で実施した看多機事業所運営に関する実態調査では、その具体的な活動内容や地域内での配置状況については、十分に関係機関にも共有されていない現状がありました。

本冊子では、地域に所在する 18 か所の看多機を地図上に示すとともに、各事業所の特色ある取り組みを紹介しています。

地域包括ケアの推進に向け、本冊子が関係者の理解と連携が推進されることを期待するとともに、本冊子が、看多機の理解促進と地域におけるより良い支援の実現に向けた一助となりましたら幸いです。

令和 8 年 3 月末日

公益社団法人 京都府看護協会 会長 豊田 久美子

目次

つながる、広がる、看多機の輪

～多職種連携で創る、新しい地域の拠点～

1. 看多機の魅力・しくみ	1
2. 京都府 看多機事業所一覧	3
3. 事業所紹介	5
4. 職種紹介	7
5. 活動報告	8
6. おわりに	12

1

看多機の魅力・しくみ

ひとつの事業所で、つながる安心 ～看多機 4つのサービス～

「ずっと、住み慣れた地域で、『いつもの暮らし』ができる。」

その願いに応えるのが、看護小規模多機能型居宅介護（略称：看多機）です。

看多機では、「通い」「泊まり」「訪問看護」「訪問介護」の4つのサービスを、ニーズに応じてひとつの事業所が、一体的に提供します（図1）。

利用者の状態や体調、生活の変化に応じて、サービスを柔軟に組み合わせることで、必要なときに「訪問」や「泊まり」を取り入れながら、切れ目のない支援が可能です。「ひとつの窓口」で暮らしと医療をつなぐことができる点が、看多機の大きな魅力です。



図1 出典：日本看護協会「看多機って何？」～看護小規模多機能型居宅介護の概要～

～看多機では、様々な利用者を受入れています～

看多機には看護スタッフが配置され、主治医と連携しながら医療が必要な利用者にも対応することができます。医療ニーズが高くなっても、顔なじみのスタッフが継続して関わるため、安心して在宅療養を続けることができます。

また、ご家族にとっても、急な体調変化や介護負担への不安を軽減できる心強い支えとなります。

看多機では、退院直後の状態が不安定で在宅生活へのスムーズな移行支援が必要な方や医療処置の必要な方、認知症の方、リハビリが必要な方、そして看取り期の方など、さまざまな利用者を受入れています。（図2）

- 胃ろう・経鼻経管栄養の管理の必要な方
- インスリン管理の必要な方
- カテーテル管理（気管カニューレ、点滴など）の必要な方
- 排痰ケアや吸引処置が必要な方
- 褥瘡などの処置が必要な方
- リハビリテーションの必要な方
- 認知症の方
- 終末期の方
- ご家族や介護者の方 など

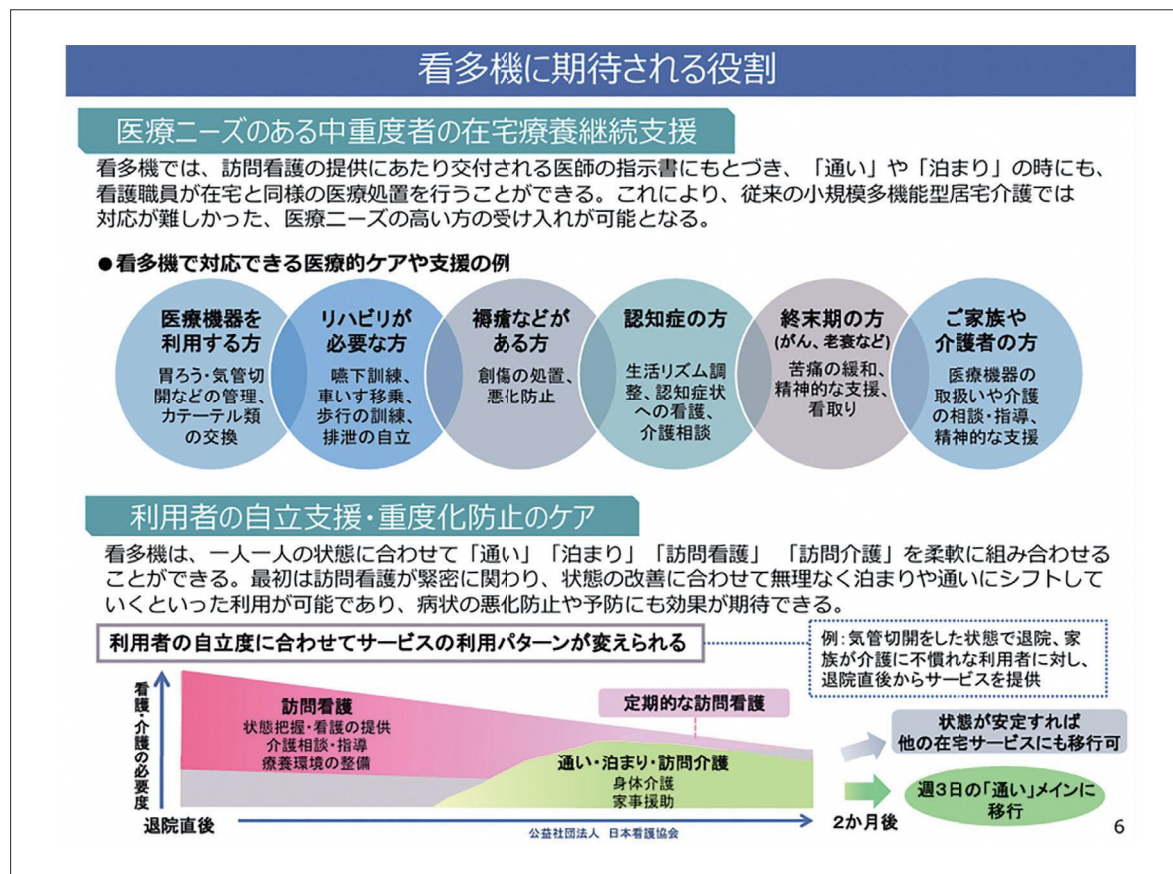


図2 出典：田母神 裕美、2023年度 看多機開設支援オンラインセミナー資料、日本看護協会

つながる、広がる、看多機の輪

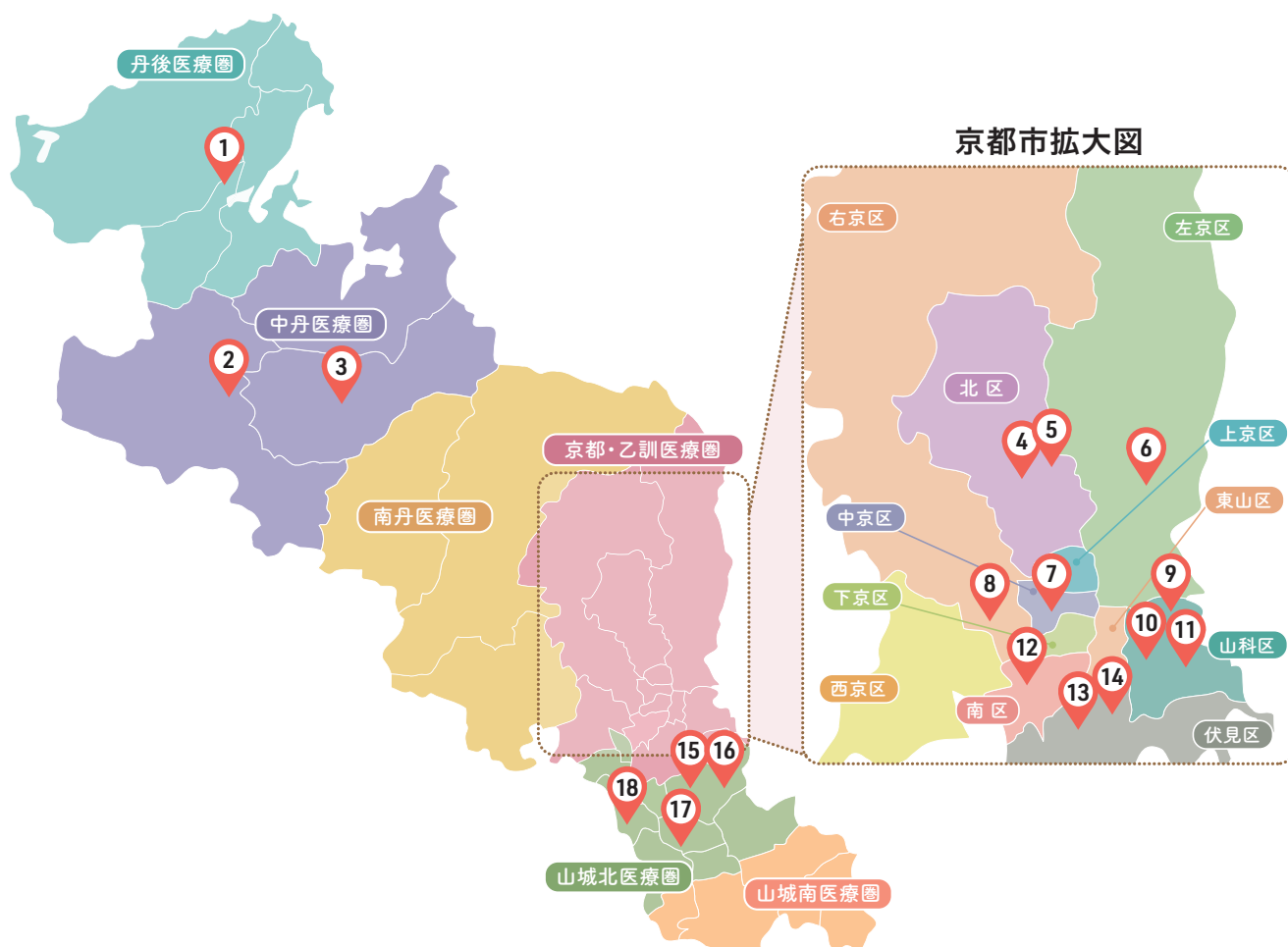
～京都府看多機事業所一覧～

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

医療圏	番号	市町村名	サービス種類名	事業所名		
			郵便番号	所在地	電話番号	FAX
丹後	①	与謝野町	複合型サービス	しずちゃんハウス		
			〒 629-2263	京都府与謝郡与謝野町弓木 1 番地	0772-47-9856	0772-47-9857
中丹	②	福知山市	複合型サービス	特定非営利活動法人こもれび		
			〒 620-0846	京都府福知山市長田段字長田 785	0773-27-6508	0773-27-6508
	③	綾部市	複合型サービス	公益社団法人京都保健会 複合型サービスきょうりつ		
			〒 623-0066	京都府綾部市駅前通 1 番地	0773-40-5500	0773-40-5501
京都・乙訓	④	北区	複合型サービス	ナーシングケアホームおとく		
			〒 603-8149	京都市北区小山南上総町 7 番地	075-411-9371	075-411-9372
	⑤	北区	複合型サービス	かんだき 北山		
			〒 603-8052	京都市北区上賀茂松本町 96 番地 1	070-3350-4034	050-3737-6288
	⑥	左京区	複合型サービス	ナーシングケア カノンしもがも		
			〒 606-0816	京都市左京区下鴨松ノ木町 64-50	070-1217-0550	050-3737-6288
	⑦	中京区	複合型サービス	洛和看護小規模多機能サービス壬生		
			〒 604-8852	京都市中京区壬生東大竹町 44 番地の 1	075-803-1550	075-803-1551
	⑧	右京区	複合型サービス	パナソニック エイジフリーケアセンター 京都花園・看護小規模多機能		
			〒 616-8054	京都市右京区花園中御門町 11 番地	075-841-2303	075-841-2307
	⑨	山科区	複合型サービス	洛和看護小規模多機能サービス音羽		
			〒 607-8066	京都市山科区音羽森廻り町 34 番地の 8	075-595-3295	075-595-3296
	⑩	山科区	複合型サービス	パナソニック エイジフリーケアセンター 京都山科新十条・看護小規模多機能		
			〒 607-8204	京都市山科区栗栖野華ノ木町 12 番地	075-591-5104	075-591-5105
	⑪	山科区	複合型サービス	メディカルケアホーム アプリシェイト山科 2 号館		
			〒 607-8147	京都市山科区東野森野町 23 番地	075-606-7500	075-606-7511
	⑫	南区	複合型サービス	公益社団法人京都保健会 吉祥院複合型サービスれんげそう		
			〒 601-8314	京都市南区吉祥院井ノ口町 43 番地	075-693-8408	075-693-8407
	⑬	伏見区	複合型サービス	複合型サービスみちくさ		
			〒 612-8429	京都市伏見区竹田西段川原町 169 番地	075-643-2811	075-643-2812
	⑭	伏見区	複合型サービス	墨染の家ほっこり		
			〒 612-0045	京都市伏見区深草石橋町 18 番地の 1	075-645-2721	075-645-2740

山城北	⑮	宇治市	複合型サービス	複合型施設鳳凰槇島		
			〒611-0041	京都府宇治市槇島町 35 番地 5 府営住宅槇島大川原団地	0774-25-2050	0774-25-2160
	⑯	宇治市	複合型サービス	医療法人徳洲会 看護小規模多機能型居宅介護 巨椋の郷		
			〒611-0041	京都府宇治市槇島町一ノ坪 26 番地の 3	0774-94-6808	0774-85-0036
	⑰	城陽市	複合型サービス	看護小規模多機能型居宅介護 ひだまり鍛冶塚		
			〒610-0101	京都府城陽市平川鍛冶塚 53 番地	0774-57-5111	0774-57-5112
	⑱	八幡市	複合型サービス	医療法人社団医泉会 看護多機能施設すみれ		
			〒614-8085	京都府八幡市八幡馬場 38 番地	075-972-6122	075-972-6114

京都府看多機事業所マップ



笑顔がつながる、京都の看多機 ～私たちの想い～

京都府内では、地域に根ざした看多機の取組みが広がっています。

このたび、各事業所のみなさまより、『**私たちの活動や思い**』をお寄せいただきました。

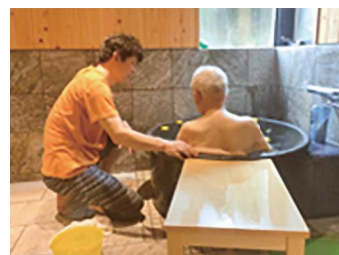
いずれも、看多機が持つ魅力や役割を多くの方に知っていただくうえで、貴重な内容となっています。

ご協力いただきました事業所のみなさまに、あらためて御礼申し上げます。

しずちゃんハウス

しずちゃんハウスは丹後初の看多機。理学療法士が管理者という特徴から、陶器のお風呂、畑を活かした生活リハビリで認知症ケアを実践。

多職種が連携し、退院後も安心して在宅復帰を支える、地域に根ざした温かな場所を目指しています。

公益社団法人京都保健会
複合型サービスきょうりつ

当事業所を開設して約11年。事業所のスローガンを『医療と介護サービスの連携で、住み慣れたご自宅・地域で安心の暮らしを』とし、同じ建物に併設の診療所や居宅介護などと連携し、地域を支える事業所となるよう努めております。



かんたき北山

看護師が入浴介助、リハビリ職が送迎、厨房スタッフがレクリエーションを行い、介護士が医療的ケアを行うこともあり、多職種協働を図っています。

ご利用者様のこの先の人生をちょっぴり豊かに。持てる力を余す事なくご利用者様の24時間に提供しています。



洛和会訪問看護ステーション壬生

洛和看護小規模多機能サービス壬生は京都市中京区、阪急西院駅東出口から徒歩5分のところにあります。訪問看護ステーションが併設。

看護師は訪問看護ステーションと兼務で、全看護師が利用者さまと関わります。

公益社団法人京都保健会
吉祥院複合型サービスれんげそう

私たち吉祥院複合型サービスれんげそうは吉祥院病院内に位置しており、吉祥院病院を拠点に地域医療・介護・福祉に特化しております。

よくある住み慣れた地域でと、ありますが、年々難しくなっている現状があります。それでも、諦めずご利用者・ご家族が望む在宅生活を全力で支援してまいります。



洛和看護小規模多機能サービス音羽

洛和看護小規模多機能サービス音羽は、地域に根差した事業所であること、人生まだまだ捨てたもんじゃない、あるがままに過ごせる事業所をモットーとし運営しています。洛和会音羽病院に近く、訪問看護を併設していますので、医療ニーズの高い利用者さんの在宅生活も支えることができます。



複合型施設鳳凰槇島

地域に密着した世代間の交流を目指し、温もりのあるサービスの提供を大切にしています。

“ほっ”とできる環境でいきいきとした生活を応援します。



医療法人徳洲会 看護小規模多機能型居宅介護 巨椋の郷

ご利用者（ご家族）様が気軽にご相談いただき、必要な支援を的確に行い、住み慣れた自宅で安心して生活で出来るように支援します。「共に楽しく幸せに生きる」を実現できる空間を目指します。



医療法人社団医泉会 看護多機能施設すみれ

複合型サービスの強みを活かし、医療と連携を図りながら医療ニーズの高い方、看取り支援に力を入れています。

また、急激な身体状況の低下や体調面悪化などで在宅での生活が困難になられた方に対して迅速な受け入れ、サービスが提供できるよう他事業所や医療機関と連携を図り地域で安心して生活できるよう支援しています。



ナーシングケア カノンしもがも

この春より共生型サービスに向けて動き出します。働くスタッフが楽しくなければ、良い介護・看護が出来ないと思っています。困っている利用者・ご家族の力になりたい！みんなの笑顔が見たい！ぜひカノンに遊びに来て下さい。



ナーシングケアホームおとく

～住み慣れた地域で安心して住み続けられるために～開設 14 年目を迎えます。

利用者・家族のニーズに合わせた個別ケアを提供します。利用者・家族に安心してもらえるよう信頼関係を大切に。職員が成長し、働きやすい環境を作ります。



みんなで支える、地域の暮らし。
 いろんな『技』が集まって、
 笑顔届けます。

～看多機では、それぞれの役割を活かし、
 「お家で暮らし続けたい」を形にしています。～

看多機事業所 管理者

看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・介護支援専門員・事務員が在籍。どの職種もスペシャリストが揃っています。歌って踊れて？絵も描ける！職種を超えて皆、利用者と共に毎日を楽しみながら切磋琢磨し奮闘しています

カノンしもがも



介護支援専門員（ケアマネジャー）

現在、利用者の平均介護度は3.0程度。医療度の高い方が多く、迅速・柔軟なサービス調整により、看多機の機能を最大限発揮できるよう心掛けています。利用者の近くで、状態の変化や家族に寄り添える支援は充実感があります。

複合型サービスきょうりつ



看護職員

看護師としての専門性を活かしながら、多職種と協働して利用者さんの生活に寄り添えるのが看多機の魅力です。笑顔や何気ない会話が、私たちの原動力になっています。

洛和看護小規模多機能サービス音羽



理学療法士（PT）

事業所の特徴は、とにかくレクリエーションを楽しむところです。手作り感も味として利用者さんに楽しんでもらえるように、毎日考えています。

理学療法士監修の機能訓練や集団でのリハビリを毎日実施しています。

洛和看護小規模多機能サービス壬生



言語聴覚士（ST）

専門職として、日常の“食べる”“話す”“伝える”楽しみのために、生活の中でできる工夫を一緒に考えています。利用者さんのペースに寄り添いながら、できることを一緒に増やしていきます。

しずちゃんハウス



介護職員

看護師と連携し、利用者の生活の質の向上を目指します。医療依存度の高い利用者が多いですが、介護職としての役割を担っています。

気持ちよく楽しく、おとくと自宅で過ごしてほしいです。

ナーシングケアホームおとく



ドライバー

丁寧な運転と温かい声かけを心がけています。利用者さんの一日をつなぐ大切な役割を担っています。

洛和看護小規模多機能サービス壬生



この街で、あなたらしく

～地域に根ざし、暮らしを支える私たちの実践～

京都府内の看多機では、地域に暮らす方々の生活を支えるため、多様な専門性と柔軟な支援体制を生かした取り組みが進められています。

令和7年度に実施した交流会では、課題共有・グループワークを行い、さらにヒアリングを通じて看多機の特性と強みを最大限に生かした4つの活動をご紹介します。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）：医療と生活の両立



「病状が悪化してもいい、家に帰りたい」

～ BiPAP（人工呼吸器）とともに歩む、夫婦二人の穏やかな日常～

公益社団法人京都保健会 複合型サービスきょうりつ

70代のAさん（女性）は重度のCOPD（慢性閉塞性肺疾患）で、食事以外は24時間のBiPAP装着が必要な状態。

「自分らしく暮らしたい」という強い希望があり、在宅生活が始まりました。看護師がマスク着脱と体調管理を行い、介護職が生活を支える。車いす生活のご主人との「夫婦の暮らし」を、他事業所とも連携してまるごとサポートしています。

Aさんにとっての生きがいは、ベッドの上で家計管理。長年続けてきた「家庭を支える役割」は、今も変わりません。私たちは、その大きな役割が続けられるよう、医療機器の管理と生活支援を組み合わせ日々の暮らしに寄り添っています。

そして関わりの中で、Aさんがふと、こう言われました。「いつも、ありがとう。」

その一言が、私たちの支えとなり、日々の力へとつながっています。

【看多機だからできること】

「通い・泊まり・訪問」の柔軟に組み合わせ、24時間の安心を支えます。

■ 平日の訪問（毎日）：

- ・訪問看護（1日3回）：BiPAP着脱（毎食時）、呼吸状態の観察、清潔ケアなど
- ・訪問介護（1日2回）：食事準備、掃除、買い物などの生活支援

■ 週末の安心（休日）：

- ・お泊まり（週2日）：ストレッチャーでの入浴やリフレッシュ
- ・送迎：安全に自宅と事業所をつなぎます

介護支援専門員：他の事業所とも連携し、夫婦の暮らしをコーディネート

【私たちの合言葉】

「つなぐのは、呼吸と、笑顔と、いつもの暮らし。」

私たちは、ご本人の尊厳と『ここで暮したい』思いを、これからも支え続けます。



「おいしい」と「栄養」を両立する工夫

～多職種の知恵を絞り、褥瘡（床ずれ）を乗り越えた『食』のちから～

一般社団法人かのん かんたき北山

「最近、食欲も落ちて、床ずれもなかなか治らない……」。そんな不安を抱える利用者様に、私たちは専門職チームで向き合いました。

思うように進まない回復。

「姿勢が右に傾いている」

「白い食器だと、ご飯が見えにくいのでは？」

転機は、職種の垣根を越えたある日のカンファレンスでした。

看護師、リハビリ職、管理栄養士、そして日々寄り添う介護職。それぞれの専門性から生まれた「小さな気づき」を持ち寄り、つなぎ合わせて行きました。

すると、「食べられない理由」が見えてきたのです。

その後はチームでケアを統一し、支援を継続。少しずつ食事量が増え、褥瘡の改善にもつながっていました。

【看多機だからできること】

多職種の“気づき”を“ケア”に変える

- 「理由」を共有してケアを一つに：専門職がそれぞれの視点で見えた理由を丁寧に伝え合い、チーム全員でケアを統一しました。
- それぞれの専門性
 - ・ 看護師：創部の状態観察と適切な処置、日々の観察と、連携の要
 - ・ リハビリ職：姿勢の評価とポジショニング、身体づくりと環境調整
 - ・ 管理栄養士：回復を促す栄養管理と「食べやすさ」の両立を図る個別対応
 - ・ 介護職：日々の生活支援や見守り、身近な存在としての気づきの発信

【私たちの合言葉】

「小さな気づきを、大きな力に。」

職種の垣根を越え、互いの専門性を尊重しながら、一人ひとりのために知恵を重ね続けるチームでありたいと考えています。



「いざという時、地域で手を取り合えるように」

～手探りで始めた防災訓練。顔の見える関係づくりへの第一歩～

公益社団法人京都保健会 吉祥院複合型サービスれんげそう

「もし、今大きな地震が起きたら……。」

看多機には、医療機器を使っている方や、移動に支援が必要な方がたくさんいらっしゃいます。“スタッフで守れるのか？”そんな問いから、防災訓練は始まりました。近隣の方々や町内会へ声をかけ、地域とともに行う取り組みです。

一緒に避難経路を歩き、炊き出しの準備をする中で、少しずつ変化が生まれていきました。

「この段差、車いすだと大変だね」「何かあったら、まずここ（看多機）に集まればいいんだね。」

自然と交わされる言葉の中に、“支え合いの芽”が育ち始めています。

気づけば、防災訓練は「備える場」から「つながる場」へ。

「防災」をきっかけにした、新しいご近所付き合いは、「いざという時のための顔合わせ」から、日常を少し明るくする時間へと変わっていきました。

災害時には地域の方が駆けつけ、日常では誰もがふらりと立ち寄れる、そんな「地域の灯台」のような存在でありたいと考えています。

【看多機だからできること】

地域の安心を支える“拠点”

- ・ 個別避難計画の共有：利用者様一人ひとりの「守り方」を地域とともに考え、共有
- ・ 多世代交流の拠点：子どもから高齢者まで、誰でも集まれる「開かれた事業所」へ
- ・ 24時間の安心体制：看護職が関わる事業所として機能する「頼れる場所」
- ・ 顔の見える関係づくり：町内会や民生委員と日頃からつながり、「助けて」と言える関係へ

【私たちの合い言葉】

「備えは、つながりの中に」

災害時には支え合い、日常では自然に集える場所として、私たちはこれからも地域の一員として歩み続けます。

防災は、一度の訓練で完成するものではありません。今回の取り組みは、まだ“はじまり”です。だからこそ私たちは、地域とともに考え、関わり続けながら、「備えを、日常の中に根づかせていくこと」を大切にしていきます。



「最期まで“自分らしく生きる”を支えた看多機の関わり」 ～不安の中にあった日々から、家族に囲まれた穏やかな看取りへ～

社会福祉法人洛和福祉会 洛和看護小規模多機能サービス音羽

「食べ物が喉に詰まる感じがする。窒息してしまうのではないか…」

そんな強い不安の中で、何度も医療機関へ連絡をされていた A さん。

その思いから、食事が思うように摂れず、徐々に痩せ、褥瘡も出現してきました。

訪問看護だけでは支えきれない状況の中、「誰かそばにいてほしい」——その思いが強まる中、看多機の利用が始まりました。

通所や泊まりを柔軟に組み合わせながら寄り添い関わる中で、「ここに来ると安心する」という言葉が聞かれるようになりました。

ある日、「マクドが食べたい」という一言をきっかけに、介護職と一緒にシルバーカーで休み休みお店まで歩き、好物だったてりやきマックバーガーを口にすることができました。

「歩けた」「食べられた」という体験は、自信と意欲を取り戻す大きな転機となりました。

その後は家族と過ごす時間も増え、孫と食事を楽しむなど、穏やかな日常が戻ってきました。

やがて、病状は進行。

入院を経て、ご本人の「家で最期を迎えたい」という思いが家族に伝えられました。

その思いを受け止め、迷いながらも在宅での看取りを決断されたご家族。

退院の日、自宅には家族全員が集まりました。

久しぶりにそろった家族との時間。

交わされる何気ない会話。そのひとつひとつが、かけがえのない時間でした。

翌朝、ご本人は家族に見守られながら、静かに最期を迎えられました。

後日、ご家族からは「ここ（看多機）でよかった」との言葉が寄せられました。

【看多機だからできること】

最期まで、その人らしい生活を支える

- ・ その日の体調や気持ちに応じて、「通い・泊まり・訪問」を柔軟に組み合わせられる
- ・ 不安が強いときにはすぐに泊まりへ切り替えるなど、臨機応変な対応が可能
- ・ なじみの職員が継続して関わることで、安心できる環境を提供できる
- ・ 多職種が協働し、心身の安らぎとその人らしい尊厳ある最期を支える

【サービス内容】

訪問看護／通所／宿泊／訪問介護 ※状態や希望に応じて組み合わせて提供

【私たちの合い言葉】

「思いに寄り添い、その人らしい最期をともに支える」

6

おわりに

看護小規模多機能型居宅介護は、地域の誰でも立ち寄れる「くらしの拠点」として年齢や障害を問わず、さまざまな人が共に支え合える場所を目指しています。今後、地域医療構想の中では、ますます「治す医療」から「治し支える医療」へと加速し、地域で暮す時期が長く、多くなってきます。病院から在宅へ戻るまでの不安な時期にも、安心して過ごせる「つなぎの場」として、暮らしのリズムを取り戻したり、看護と介護のケアをともに考えたり、その人らしい「くらし」や「最期」のために、利用者やご家族の思いに寄り添う活動を行っています。

本冊子では、京都府内の18事業所の取り組みや、現場での実践の一部をご紹介します。

日々の支援の中には、利用者ご本人やご家族の思いに寄り添いながら、試行錯誤を重ねている姿があります。時には困難に向き合いながらも、多職種が力を合わせ、その人らしい暮らしを支える活動が行われています。

その一つひとつの活動が、地域で暮らし続ける力となり、支え合いの輪を広げています。

当協会は、今後更に「介護」「障害」の枠を超えて「全世代型地域包括ケア」推進の拠点となり、地域に根ざし、看多機の機能を必要とする人が、円滑に利用できるよう、看多機の役割を広く周知し、各関係機関と連携を図っていきます。

本冊子が、看多機の機能や役割の理解を深め、京都府民のその人らしい暮らしの一助となれば幸いです。

公益社団法人京都府看護協会

常任理事 木下 直子

看護小規模多機能型居宅介護事業所支援事業（京都府基金事業）

【作成者】

本多 由起子	京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系 社会疫学分野 特定助教
松久保 眞美	ナーシングケアホーム おとく 管理者
木下 直子	京都府看護協会 常任理事
川合 幹子	京都府看護協会 事務局

【発行元】

公益社団法人京都府看護協会

京都府看護小規模多機能型居宅介護（看多機）の活動

2026 年 3 月 発行

発	行	公益社団法人 京都府看護協会
編	集	株式会社 田中プリント
印	刷	株式会社 田中プリント



公益社団法人 京都府看護協会

〒606-8111 京都市左京区高野泉町 40-5

TEL 075-723-7195

<http://www.kyokango.or.jp>

